

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	障害者雇用創出・就労啓発事業での地域ネットワーク形成		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	
	行政	横浜市健康福祉局障害自立支援課	
事業の目的	障害者の雇用及び就労啓発を目的とし、共生社会の実現に寄与するショップを、令和2年に新市庁舎（北仲通地区）及びJR関内駅北口高架下（関内駅周辺地区）に設置するにあたり、近接エリアに位置する両ショップを連携させながら、地域とのつながりを持って運営できるショップとしていくための仕組みづくりに取り組む。		
事業の内容	<p>(1) 持続可能な仕組みづくり 地域ネットワーク（プラットフォーム）が継続していく活動になるような仕組みづくりを行うこと。</p> <p>(2) その他、事業実施に必要な業務</p>		
役割及び責任 分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	持続可能な仕組みづくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 仕組みの検討</li> <li>2 企業や地域団体等からの情報収集（ヒアリング、検討会等）</li> <li>3 ネットワーク内に必要な規定等の整備</li> <li>4 企業や地域団体等の外部への情報発信（広報物、HP、イベント等）</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 仕組みの検討</li> <li>2 行政関係部署等からの情報収集及び調整（ヒアリング、検討会等）</li> <li>3 2ショップとネットワークとの関係構築</li> <li>4 既存団体等への情報発信</li> </ol>
	その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業計画書の作成</li> <li>2 各種打合せ日程の調整</li> <li>3 各種打合せ資料作成及び記録まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全体進捗管理・調整</li> </ol>
実施期間	令和2年4月1日から令和3年3月31日		

記入日	令和3年3月31日
記入者	<p>[団体等]</p> <p>・団体等名： 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター</p> <p>・記入責任者 氏名： 吉川 典子 連絡先： 045-228-9117</p>

	<p>[行政]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 部署名： 健康福祉局障害自立支援課</li><li>・ 記入責任者 氏名： 水口 茜 連絡先： 045-671-3992</li></ul>
--	--

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	B	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	B	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	B

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

#### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・本事業趣旨を確認したうえで、新型コロナウイルスによる人々の生活の変化をポジティブに考え、事業によって目指す社会の姿をとらえなおすことができた。
- ・Marine blue と JR ショップの開業スケジュール、両者の連携に関する考え、協働事業最終年度の到達イメージを確認し、年間計画を共有した。
- ・ホームページの基本的な構成、パンフレットの制作を行ったことにより、メディアを使った外部への説明を想定し、目的について改めて見直すきっかけになった。それにより、ホームページと事業そのものについて内容を整理し可視化する相乗効果がみられた。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- ・行政とNPOそれぞれの強みを活かしての役割分担を行えたと思うが、2つのショップ運営主体やアンバサダー、周辺の協力関心を寄せる人の役割などを明確にし、協力体制の強化に努めたい。
- ・持続可能な事業とするためのマンパワーや資金源の確保も視野に入れたうえで現実的な計画を立てたい。

#### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・7月1日にホームページ公開し、プラットフォームのツールとして運用を開始。プラットフォームが可視化されたことで、今後やっていきたいことのイメージがしやすくなった。
- ・障害者雇用・就労の周辺にある様々なテーマを扱うことにより、趣味や関心を通じて障害者との距離を縮めるとともに、これまでにないインクルーシブな文化交流の方法を模索していきたいという考えのもと、障害者とともに楽しむ茶道「しょーがい茶」を実施。茶道家の方の協力を得ながら、障害者と健常者の「違い」に着目しながら、インクルーシブデザインを実践した。また、茶器や水差し、和菓子を福祉事業所の手作りのものから選ぶことも、既存の茶道の常識を超えた挑戦であり、事業所にとっては商品の活用領域を広げる経験となった。
- ・marine blue を会場とした勉強会の開催、アトリウム利用のキックオフイベント等が新型コロナウイルス感染拡大への配慮から中止としたため、ホームページのインタビュー記事としてmarine blueのカフェとしての特長、運営の工夫などを掲載した。インタビューを通して、これまで認識していなかった運営上の様々な工夫と苦勞を知ることができた。また、記事作成・公開のプロセスにおいて、育成会とコラボの間で信頼関係を築くことができたことも大きな成果であった。なかでもカフェメニュー開発において、ふれあいショップとしての特色を意識した価値ある実践が多数行われていることを知り、ホームページで読み手に届けるべき要素が多数見つかった。
- ・「わたしは街のパン屋さん(通称:街パン)」事業に参加している障害福祉事業所のインタビュー記事の

掲載を行った。本事業で市が課題と感じていた、客層のほとんどが市職員であり市民利用が少ないこと、現状単なる販売場所となっており、出店事業所の意識向上につながるような取り組みとなっていないこと等の解決策として、ホームページを活用したPR・宣伝により市民利用を促すことを目的とした。インタビューを通して、商品の裏にある工夫や利用者の姿、支援員の想いを知ることができ、それを掲載することで、商品にストーリーが生まれ、単なる商品紹介ではなく、販売スペースとしての魅力アップを図ることができた。

・プラットフォームとしての機能の明確化、それと連結した活動の可視化と参加意欲の喚起などを目的とし、ホームページのリニューアルをおこなった。プロの編集者などの意見も反映し、閲覧者の視点に立ったレベルアップを目指した。marine blue や街パンのインタビュー記事の掲載により内容が充実したことや、市のイントラネットを通じて周知を行ったことで閲覧数が増え、ホームページを情報の可視化・目的共有のツールとして、関係者からの信頼を得ることもつながったと思われる。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ホームページを活用した取り組みが中心になった。情報の可視化や共有ができるようになったのはよいが、一方通行の関係にならないよう、プラットフォームへの参加者を増やす取り組みも必要。
- ・ホームページの内容は充実してきたが、今後はプラットフォームの実働とリンクさせながら更にコンテンツの充実・追加を図り、次の段階（もっと多くの人に見てもらおう）への取り組みを進めていきたい。
- ・コロナ禍に対応し、市とNPOを中心とした少数のメンバーでのプラットフォーム・ホームページ運営となったため、メンバーやユーザーに向けたルールづくりができていない。今後プラットフォームの活動内容とスケールに合わせたルールづくりが必要。

#### 事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

- ・市とNPOがビジョンを共有し、対等な関係で継続的に協力した結果、コンセプトに対し2つのショップとの認識共有を図ることができ、他のふれあいショップの課題解決にもつながるような支援のあり方に気づくことができた。
- ・障害者雇用創出・就労啓発、ネットワークづくりに複数の手法を用いて取り組んだ結果、多様な団体等の共感を得て、多くの協力者とつながることができた。今後は、より継続的に協働する団体・個人を増やし、成果を高めたい。
- ・パンフレットやHPなど、外部向けのコンテンツを作成することで、プラットフォームを具体化することができた。このコンテンツを、これまで関わってこなかった層の人と繋がるきっかけにしたい。
- ・新型コロナウイルスの影響や開業時期のずれにより、2ショップとのイベントの実施が思うようにできなかったが、それぞれのショップのニーズに合わせて打ち合わせに参加したり、アイデアを出したりすることで緩やかなつながりを持つことができた。

#### 自由記入欄

・コンセプト作りから実施まで、ほぼ同じメンバーでの協働が実現したこと、3年間伴走したことで相互に信頼関係を築けたことにより、社会の変化にも対応しながら本事業ならではの新しい価値を創造することができた。経年事業でなければ出せない成果にも着目し、今後の協働事業の設計に活かしていただきたい。